臺灣日日新報
本日四頁
昭和十五年（一九四〇年）六月廿五日（火曜日）
紀元二六〇〇年 皇紀二六〇〇年 第一萬四千二百號
臺北市北門町四丁目廿番地 電話五八〇一番 五八〇二番 五八〇三番 五八〇四番 五八〇五番 五八〇六番
臺北郵便局第一〇四號 臺北二番
本社

激流 (第五部)

久生十蘭 作
伊勢良夫 畫

(65)

疑惑（十一）

「疑惑が、自分だけの考えにとりつかれるのも困るが、といって、疑惑のない白紙で、ぼんやりしているのも困るのだ。」

「すると、馬淵さんと冬枝の結婚に、何か自然なところがあると思うのね。もし、そうだとすると、どんなことなんだろうな、代数なんかやさしくて、幽霊の言葉でザックリ言ってみてくれないかしと」

「だから、先刻、これはあたしの憶測だけど、と言ったでしょう。ほんとうのところは、何もわかってるないのよ。ただ、繁子さんのことだから、陰の自分勝手と、潔心であるから二人を結婚に導きはしたいかと思って、それを心配してるのだけど。つまるところ、取越苦労かと」

「つまり、あなたは、この結婚に反対なのね」

「さあ、あなたは？」

「あたしよく解らない。あなたは？」

「あたしは大賛成。あなたは？」

「あたしも賛成。」

彼女は、冗談にごまかされて二人の顔を眺めた。

この人達は、一個一個を大事にし自分は、冬枝と結婚するなどと言ったら、どんな顔をするだろうと考えなければ、そんな気持にならないのだから。

馬淵の気持には、すこしも疑惑がないので、冬枝に対しても、伯世に対しても、ここで向き合ってるこの二人に対しても、勝ち自由な考え方をすることが出来た。伯世に対しては、自分を許すうえに東京へ呼んでくれたことで、最初の結婚の約束を果たしたし、馬淵

八日に陸軍始觀兵式

臺北練兵場で午前十時から

すべく十六日午前十時半頃練兵場より凱旋し二八〇高地に向ひ直ちに頑強に抵抗せる敵を殲滅して同日午後零時半頃これを奪取した▲引き續き練兵場、孫山附近に主力を展開し殘敵掃蕩の後陣地を占領するや攻撃を準備し翌〇日午前七時半頃より攻撃を開始、この時孫山敵陣より猛烈なる射撃を受けたが我が隊は敵の火點に對し肉彈攻撃を敢行して同日午後二時頃である▲攻撃隊は引續き孫山を攻略するに決し猛烈なる敵火を冒して敵陣地に突入この際孫山方面より猛烈なるナニコ砲の射撃を受けたが我が隊を叱咤激勵して敵陣内に殘敵を掃蕩した、攻撃隊は十七日午前二時半孫山一帶を完全に占領した

▲孫山の東南方なる高地で必死の抵抗を續けた敵も翌夜來我が主陣の重砲撃數發なる攻撃に遭ひ八日拂曉に至りその主力は孫山の西方及び北方に退却したので同日の曉攻を斷念しつつ十八日午前九時半孫山一帶を完全に占領した

▲攻撃隊は更に其の北方高地に進出、北部孫陣地なる〇〇高地の後山攻略に協力するため同地點に於て〇〇〇を以て後方より攻撃し同方面の敵を制壓及び大孫埔山方面へ潰走せしめた―後略―

基隆市役所で始政式

【基隆電話】基隆市役所の昭和十五年始政式は四日午前十時から三階會議室に於て樋山市長、加村助役以下本職員參列して擧行、樋山市長より「本年も一層努力し市勢に特段の發展をもたらすことを期し」と個人的の抱負を述べ次に加村助役より各課があつて同十時十五分解散した、なほ市は新年宴會で休み六日から平常通り執務する

頑強に抵抗する 巖窟の敵撫斬り

松本少尉の手記に觀る

【臺北にて陸軍報道部發表】前掲孫山の敵に肉薄した、この際同兵隊は第二線陣地を西側斜面附近に構築し敵に備へを怠りやせかけたが敵攻撃の大部隊内に潜在せる敵は天險の地形を利み容易に退却せず死者ばかりの抵抗を續けた、そこで我が隊は附近に於て夜を明かし、更に敵陣を左翼に廻つて大兵力を以て攻撃を開始するに決し同所で夜

▲孫山の西南方高地より頑強なる抵抗を受けた、この際同兵隊は第二線陣地を西側斜面附近に構築し敵に備へを怠りやせかけたが敵攻撃の大部隊内に潜在せる敵は天險の地形を利み容易に退却せず死者ばかりの抵抗を續けた、そこで我が隊は附近に於て夜を明かし、更に敵陣を左翼に廻つて大兵力を以て攻撃を開始するに決し同所で夜

▲孫山、樋山に迫つた〇〇隊と共に敵陣内に突入

敵を日本刀で撫で斬り完全にこれを占領した、又この際附近の大巖窟内に潜在せる敵は天險の地形を利み容易に退却せず死者ばかりの抵抗を續けた、そこで我が隊は附近に於て夜を明かし、更に敵陣を左翼に廻つて大兵力を以て攻撃を開始するに決し同所で夜

▲次いで孫山西南方の敵を攻撃

科學的の檢討から 優良家系の調査

全國で約百卅餘家系を

【東京四日發本社特電】厚生省が昨年二千六百年祭典頃の再開催を機會に發表すべき民族優生學、國民體力管理法案の實現に先だち、全國各地の優良家系の調査を行ふことゝなつたが、その第一次調査は左の通りである

▲調査地域 東京市麹町區三百七十四町、本郷區駒込六百五十一町、牛込區市ケ谷加賀町一丁目、芝區三田四國町、麻布區飯倉町六丁目、赤坂區青山南町六丁目、四谷區四谷三丁目、淀橋區角筈一丁目、澁谷區宮益町、世田谷區三軒茶屋町、荏原區大井町、大森區山王町、蒲田區蒲田町、品川區北品川町、目黒區上目黒町、豊多摩郡杉並町、同郡中野町、同郡野方村、北豊島郡巣鴨町、同郡王子町、同郡滝野川町、同郡豊島村、同郡板橋町、同郡練馬町、南足立郡千住町、同郡綾瀬村、東京府下北多摩郡武藏野町、同郡三鷹村、同郡調布町、同郡神代村、南多摩郡多摩村、同郡稲城村、同郡日野町、同郡七生村、西多摩郡青梅町、同郡福生町、同郡羽村、同郡五日市町、同郡秋川村、同郡瑞穂村、同郡日の出村、同郡檜原村、同郡奥多摩村、南秋川郡二宮村、同郡大久野村、同郡五ケ所村、同郡元村、同郡増戸村、同郡秋留村、同郡多西村、同郡多東村、同郡東秋留村、同郡多摩村、同郡多摩川村、同郡多摩川村、同郡多摩川

明けゆく東亞

科學の上に立つ 新日本の諸相

（下）

工學博士　隈部一雄

この後者の方、例へば木材から鍍物用の糸を作る研究と云ふやうな性質のものは比較的理解し易いし同情もされる、然しこの種の研究でも成功する迄の苦心は容易ではなく又一の成功の為には、百年の研究が國の目を見ずに葬られるこの種研究を恐れては何の研究も出來ない、野口英世博士の傳記を讀んだことのある人には研究の困難と云ふことがよく分るであらう

科學することの目的に價値を置く研究の價値は、世人から強ひて理解され難い、これ等の研究は直接的には、所謂實用とはなり難いものである、然し眞の科學の進歩はこの種の研究によつて促進され眞の科學的知識はこの種の研究室に於て培はれる、而して科學者自體は全く實用を目的としないにも拘らず新原理、新現象の發見は必ず廣大な實用を伴ふのである、われわれは世界日本の一員として此種の研究を積極的に支援、助長する態度を執らなければならない

現在、日本には國營獨立の研究所大学、專門学校等の研究所、各會社附屬の研究所の他に、研究者約五百名を擁する理化学研究所、鐵道中央試驗所、鐵道研究所等かあり、夫々の立場から研究に邁進して居る、工業技術は科学の應用であることを考へるとこれ等の研究

坐禪さながらの 香を聞く境地

興亞の誓古こと―(二)

香道では香をかぐことを香を聞くと申しますが、この香を聞くと云ふことは深い意味があるのであつて香の神秘的な感じを會得する外風流に醉ふ境地に至らなければ香を聞くとは言はれないのです。これはお茶と同じ事で、お茶に關ついて發達した茶道や華が盛んになりましたやうに香道でも香が盛んになりました。今でも香道には一言の時に於ける心得とか、香木にはいろ〳〵あるが、大別すると六種であり、五味といつて五つの味があります。香をたくには何時も必ず香をたくと云ふのではなく、その香の匂ひをかぎ分け、その香の味を知つて香をたくのです。